

北海道女子大学の目標と特徴

杉山善朗

抄 録

1997年度に開学予定の浅井学園・北海道女子大学 人間福祉学部教育理念と展望について論じた。キーワードとしての「福祉は文化である」、「優しさ」、福祉職における最低4年制教育の必要理由、「人間力」を備えた優れた社会人の養成などについて述べた。

キーワード：北海道女子大学の展望、文化としての福祉、優れた社会人の養成

1. 開学に至った経緯

学校法人浅井学園は、昭和14年創立以来、60年にわたり、「女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養をもつ自立のできる社会人の育成」を目指し、女性のための高等教育機関として重要な役割を果たしてきた。

とくに、昭和38年に創設した北海道女子短期大学においては、服飾美術科、工芸美術科、保健体育科、初等教育学科、経営情報学科を設置し、牧歌的な自然と文化的環境の中で生活にかかわる学際的かつ総合的教育を展開してきた。これまでに卒業生は2万1千名を数え、北海道内はもとより、全国各地の教育機関、企業などに多くの人材を送り出し、社会に貢献してきた。

今日、私たちは、かつて体験したことのない高齢社会を目前にしている。北海道は全国よりも高齢化率の進行が速く子どもとの同居率が低いため、高齢者を取り巻く環境が全国でワースト2である。また、①介護が必要な寝たきり老人、②痴呆性老人、③虚弱老人の人数も、来たる1999年にはそれぞれ、①7万人強、(うち在宅寝たきり老人2万人弱)、②4万3千人、③2万9千人と見込まれている。これらの老人は、全て常時介護を必要とされるから、介護に従事するマンパワーの供給は緊急かつ極めて重大な社会的課題となってきた。本学園はかねてより、北海道、江別市および道内の市町村と密な連絡をとり、そのご理解をいただきながら、福祉分野の人材を育成する教育・研究機関としての「北海道女子大学」の設置をデザインしてきた。本学の設置構想は、本学園の〈愛と和と国際性〉の理念にもとづき、「生活」を中心に福祉理念を再構築し、とくに「在宅福祉」に貢献できる有能な人材の養成と人間福祉・生活福祉に関する総合的な研究を行う高等教育機関として、ここに四年制大学の設置を計画することとした。

すなわち、北海道女子大学は、来るべき高齢社会において、各種社会福祉機関・施設・在宅等で、福祉の相談・

指導のできる教養と実践的技能をもち、関係部門で企画・運営・評価等を担当できる人材を養成し、もって社会的要請に応えようとするものである。幸いに、関係諸方面の御協力により、平成8年12月設置認可、平成9年4月に開学予定の運びとなった。なお、平成8年9月には、新しい4階建の大学校舎が落成し、介護実習室も完成し、10月～11月には文部省、厚生省の実地調査も終わり審査をパスしている。

2. 「北海道女子大学」—北海道の風土と地域に密着した21世紀の福祉文化の創造拠点を目指して

—キーワードは「福祉は文化」—

『北海道は、雪と氷、ジャガイモと鮭、広大な島と針葉樹林の大地で象徴される日本の中のヨーロッパである。住む人たちも素朴で人なつこい人が多い。』

もちろん、北海道をこのような単純な図式で言い切ることは難しい。しかし、この単文の中で、北海道が持つ国土と地域の特徴を述べたつもりである。寒冷な気候だから、衣服に防寒の工夫が必要である。しかも、うっとうしい長い冬を過ごすから豊かな色彩も忘れてはならない。暖かい住居も大切だし、凍てつく戸外で過ごすための完全な環境作りの用意も重要である。四季を通じて、いろいろ豊かな食材が容易に手に入る。これらの食材を巧みに調理してバラエティ豊かな季節料理を作ることができる。北海道人は概して一見無愛想だが、人懐っこくて素朴、他人に対する思いやり深い人が多い。だから、人間関係のあり方が細やかである。

以上のような北海道の風土と地域の特徴を生かして、北海道らしい福祉が創り出せないだろうか。かつてイギリスのチャーチル首相が「その国の高齢者や障害者の姿をみると、その国の文化がわかる」といった。チャーチルのこの言葉をもじってみると、「北海道の高齢者や障害者の姿をみると、北海道の文化がわかる」と言えるだ

ろう。

社会的弱者としてみられてきた高齢者や障害者が普通の人びとと一緒に生き生きと生活できる場を、人間生活についての複合的視点に立って創り出すことは、社会的意義があるのではないか。私たちは北海道女子大学を21世紀に通用する新しい福祉文化の教育・研究の一つの拠点でありたいと願い、それにふさわしい教育・研究施設をこの北海道の地に定着させることを目標に計画してきた。

この目標をさらに補助する手段として、北海道女子大学は、医学部の附属病院に相当する特別養護老人ホームを附属させ、学生実習の場を確保するとともに江別市圏の高齢者福祉に役立たせたいものと考えている。また、福祉諸科学の先端分野の研究を進めるために北方圏生活福祉研究所を既に開設している。ここでは、北海道地域の福祉諸問題に関する調査研究や文部省・各種財団研究費の助成による研究を進め、その成果を研究所ジャーナルに定期的に報告する。加えて、後述するように福祉諸科学の発展は、日進月歩だからアメリカ、カナダ、北欧諸国など福祉先進国との国際共同研究は欠かせないが、これも本研究所の重要な役割となると考えている。

さらに福祉の現場では職員の高度専門化が強く期待され望まれている。この辺りの事情は、5.の節で後述するが、21世紀の新しいadvancedな福祉マンパワーの育成を見通すとき、大学院の開設も緊急に配慮されなければならない課題である。

以上をまとめると、北海道女子大学設立理念のキーワードは、「福祉は文化である」ということになる。北海道女子大学は、このキーワードの下、北海道における福祉文化の発進拠点になることを目指す。

3. 「北海道女子大学」の理念

—キーワードは「優しさ」—

福祉は、人と人との関わりや、衣・食・住など生活のあらゆる場面になくしてはならない人間としての豊かさを求める文化である。キーワードは、「優しさ」である。

「優」という字は、人という字と憂えるという字が一緒になっている。「優」は、普通は人よりもすぐれているという意味で使われるが、優れていると同じ文字なのは含蓄が深い。つまり、優しいことは優れていることの一つの資質なのである。

「人」に対する優しさは、思いやりや励ましたり、世話したりすること。「衣」への優しさは、暖かく着やすい材料を使って楽しい色彩の衣服を整えること。食べて美味しく栄養のある食材を使って見た目美しく食欲をそそるように料理するのが「食」に優しいこと。道路・建物や家の中の段差を減らす工夫をして、どんな人でも

使いやすいバリアフリーの住環境を用意するのが「住」に優しいことである。

北海道女子大学人間福祉学部が、学生と共に学び、共に研究したいと考えている福祉は、このような人びとの生活を中心に据えるものなのである。

4. 他大学と比較した北海道女子大学の特徴

—生活技術に関連した授業科目—

「衣・食・住・人間関係」など生活のあらゆる場面における福祉文化を創造するのに役立つ学習と研究に関連した科目を開講しているのが、北海道女子大学人間福祉学部の大きな特徴である。学科は、二つの学科から成り立っているが、社会福祉系、福祉心理系の学習・研究を通して介護福祉士、社会福祉士（受験資格）、認定心理士、臨床福祉士（受験資格）、インテリアプランナー（受験資格）、社会福祉主事、児童福祉司、精神薄弱者福祉司、身体障害者福祉司、社会教育主事など広く高齢者、障害者福祉で十分に働ける人材を育成するとともに、中学・高校家庭科一種の教職免許を取得させて次世代の教育に携わることのできる人材を送り出す。福祉服飾、福祉栄養、福祉体育の充実も今後の課題として考えられよう。

5. 「介護士」養成がなぜ4年制大学なのか。

—3つの理由—

いま国家資格としての「介護福祉士」の大半は、2年制の専門学校で養成され、福祉を担うマンパワーとして各種施設の貴重な戦力になって活躍している。2年で取得できる国家資格をなぜ4年制の大学で取得する必要があるのかと当然の疑問が生まれてくる。

平成8年現在、介護福祉士の4年制大学は日本社会事業大学、東洋大学など全国的には5大学を数えている。北海道女子大学は6番目の4年制介護士養成大学として平成9年度にスタートする。

そこで、介護士にとって4年制教育が望ましい理由を3つあげてみよう。

- (1) この道10年、20年のベテラン介護専門家は口を揃えて、「介護士は、福祉だけを勉強するだけでなく、読書や映画に親しんだり、外国に行ったり、福祉以外の部分を沢山勉強した人の方が、福祉現場で役に立つ。お年寄りから見て、あの職員と一緒にいるのが楽しい、面白いという人が望ましい」という。2年制教育よりは4年制教育で育った介護士の方が幅の広い人材に育つ可能性が高い。4年間をかけて学んだ広く深い見聞、幅広い知識をもって現場に入るから、沢山の過去経験をもつお年寄りや障害者と幅広いアンテナで関わるができるからである。
- (2) 介護士の仕事は、どんどん広がっている。福祉現

場では、医師、看護婦、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）などの医療系職員とソーシャルワーカーなど福祉系専門家が一緒になって協同で仕事をしている。だから一人ひとりのお年寄りや家族にとって相応しく適切な介護スケジュールの作成と目標の設定が大切な仕事となる。この時、多様な職種の作業をまとめて調整する役割りを担う、ケア・マネージャー（ケア・プランナー）の立場に介護士や社会福祉士が位置づけられる機会が次第に増えてきた。この時、介護士は自分の専門はもちろんのこと、他の職種の仕事についても十分に理解する知識を持っていなければならないことは言うまでもない。そのためには、4年制以上の長い教育・研修機会を持つことが必須になるのである。

- (3) 福祉現場には、専門学校を修了した若い職員が沢山いる。これまで述べた理由から、複合的・総合的な視点をもった4年制大学出身の介護士に指導的役割が期待されることは間違いない。

いま、厚生省は、介護士養成における4年制大学教育の必要性を汲み取り、その拡大の検討を始めていると聞く。近い将来、専門性の高度化のために介護士の4年制大学および大学院の教育研修が当然のこととなるだろうと予想されている。専門性の高度化がますます社会的に必要となるからである。福祉の技術や福祉文化の進歩はそれによって保証される

のだから。

6. 北海道女子大学の教育目標または理念

「人間力」が一流または超二流の社会人育成を目指していま大学の序列は、入学志願者の学力偏差値の平均値の高低によって決まっている。偏差値が高く、序列の高い大学に入学すれば卒業後は有能な社会人候補と見なされ就職率も高いのが現状である。

北海道女子大学は、このように図式化された単純な考え方を採らない。入学時の学力偏差値がたとえ一流でなくとも、福祉マインド（優しさ）偏差値が一流のものに入学してほしいと考えている。本学に入学後、一流には満たない学力偏差値と一流の福祉マインド偏差値を総合して、「人間力」の総合評価偏差値が一流あるいは超二流の社会人を育成し、福祉分野に送りたいものと思っている。そのような人材を育てることが北海道女子大学に課せられた教育目標であり理念なのだと考えている。

これは、ちょうど社会人として成功している多くの人に、知能指数（IQ）の高いものよりは、感情が安定していて社会適応力の良い情緒指数（EQ）が高いものが多いという考え方と類似しているのかもしれない。

（参 考）

杉山善朗：いま高齢者介護の現場から 高齢者問題研究協会機関誌HGR 1～9, 10, 1995.

The Perspective Vision and the Characteristics of the Newly-Established Hokkaido Women's University

Yoshio Sugiyama, Professor, M.A., Ph.D.

Abstract

In this article, the vision and the characteristics of Hokkaido Women's University (HWU), which started in April of 1997, is discussed. The contents are as follows: 1. The history of Asai Gakuen and the processes of preparation for starting HWU. 2. An explanation about subjects, extending to various fields such as dress-making, nutrition, barrier-free housing, health sciences, physical rehabilitation and psychological counseling, etc. in relation to the opinion that styles of human services should be integrated with social culture. 3. The idea that education and studies of HWU cultivate students sensitively to the needs of others. 4. Three reasons for a requisite four-year course and graduate course to train students as registered care workers and social workers. 5. Training students to develop themselves as outstanding member of society.

Key words : the perspective vision of HWU, culture and styles of human services, training of outstanding member of society